

ウーマン @ Business  
Woman ビジネス

## ■コンドウ印刷社長

## 近藤 保子さん

コンドウ印刷(長岡市)は、コンビニやスーパーに並ぶ食品などのラベル、シール印刷を手掛ける。昨年10月に社長に就任した近藤保子さん(42)は、働きやすい環境づくりに力を入れる。「必要のない作業をやめ、やるべきことに注力できるようになった。効率が上がリ、業績にも良い影響が出てきた」と手応えを語る。

5年前まで社員の残業は月平均35時間ほどで、長時間勤務が当たり前だった。そんな時、頼りにしていた30代の女性社員が「残業が多いので結婚が考えられない」と退職した。長時間労働



## 働き方改革 好循環生む

こんどう・やすこ 長岡市出身。機械製造業、小売業などに勤務。2006年にコンドウ印刷社長(現会長)の清規さん(52)との結婚を機に入社。生産管理などを経験し、19年10月から現職。社長就任とともに茶道を始めた。「悩みやいろいろ考えることがある中、無心になれる」という。読書も趣味。伊藤忠商事元社長の丹羽宇一郎氏の著書を愛読する。

の是正など、働き方の見直かが休んでも仕事が回るようし機運が高まった時期でもうになった。自身も中学生あり、「このままでは将来、の長女がいるだけに、有給会社が存続できないかもし休を取った社員が、子ども専務として働き方改革のもも過ごしたことを喜び中心を担った。まずは残業が込み上げる。産休後に復を減らすため、社員と一緒に帰した正社員が初めて出た出をした。本当に必要なことの一つだ。

作業に集中し、残業時間は4分の1に減少。製品の不良具合も減った。2018年には、若者の人材育成に積極的で、有給休暇の取得率など一定の基準を満たした中小企業を認定する厚生労働省の「ユースエール認定企業」に長岡市内で初めて選ばれた。さまざまな取り組みに対する行政や金融機関の支援に感謝する。

有給休暇の取得を促そうと、社員の子どもの学校行事を調べ、休みを取るよう声掛けをした。誰かが休むと他の人の仕事が増えるという考え方を「休みを取ることには本人のためだけでなく、他の人が成長するチャンスになる」と改めるよう求め、意識の変化を促した。

入社前は製造業や小売業の企業で社員として勤務。その経験から常に現場社員の気持ちを意識している。

各社員のできる業務が一目で分かる表を作成。仕事を教え合う関係ができ、誰

印刷したラベルを確認する近藤保子さん

|| 長岡市南陽2

「社員の協力のおかげでやりたいことが実現できている。これからも社員の幸せを考え、地域社会に貢献したい」と前を見据えている。

|| 随時掲載 ||